

東洋大学校友会
新潟県支部会報
第37号

令和3年8月29日発行

南水

発行
東洋大学校友会新潟県支部
発行者 木村国夫
発行所 〒940-0075
長岡市渡里町3-11
TEL 0258-32-7868
印刷・製本 株式会社 本間印刷所

校友会新潟県支部創設90年記念号



●● 巻頭言 あいさつ ●●

支部長 木村国夫
S45年経済学部経済学科卒

東洋大学校友会新潟県支部会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃支部活動にご支援ご協力をいただきありがとうございます。慣例の南水37号をお届けします。

昨年はコロナ感染で支部総会等すべて中止となるやらやっかいな状況となりましたが、これを契機として長年の課題を見出し、それをなんとか解決しようという気運が盛り上がっております。あらゆる分野で持続的発展を目標として考案・計画・相談しながらの行動が求められておるようです。

そんななかで校友会本部と法人大学間で行き違いが生じていたようです。本部としては何とかこれを解決したく、現状を見直し体制を法人化することとし、支部長会に説明を続け、書面決議で支部長会の賛同を得て、昨年10月1日に「一般社団法人東洋大学校友会」を創設しました。現在本部と法人は、お互い信頼回復に向け話し合いを続けております。支部もそれを願っており又応援するものです。さらに、本部と法人間で効率的なコミュニケーションを計る目的としてIT推進を始めました。本部は支部会員にもこれを開放し、会員個人のメールアドレスの登録を求めており、この要請に協力を願います。(参照P10事務局よりメールアドレス登録の連絡先)

また菅首相も次の課題を解決する事を表明しました。

一つは地球温暖化防止行動で、気候変動・環境破壊防止の観点から2050年にグリーン社会を目指します。これは経済活動・市民生活行動等に大きく改革が求められます。

次にデジタル改革です。2030年を目安に、行政・働き方・教育・医療制度等の見直しが求められます。

さて当支部はと申しますと、今年は創設90年に当たります。神田校友会長、矢口学長よりご祝辞をいただき、大変有難うございました。本部には1896年(m29)新潟と山口両県で支部結成との記録がありますが、支部にそれが残っていない事から、1931年(s6)初代支部長として内田幾太郎氏が支部を創設し現在に至ると伝えられています。現在支部の正会員は自然減少が続いております。なんとか食い止め、判明している校友在住生4600人に対し7.5%(345人)の正会員数を8%(368人)に近づけたいと思います。25人程の増加は情報不足で厳しいと思いますが、各地区で10人程度を目標にして、皆様には、校友に声掛けをして正会員への勧誘に努めて下さい。お願いします。

巣ごもり生活でしたが、今年の大学箱根駅伝では、総合3位となり、テレビ応援の校友は、大いに盛り上がりました。今回負けた実力校は、次回挽回を目指します。東洋大も工程を再検証し、対策を練って、来年に備えて下さい。応援しております。

2021.4.25

上越地区で計画された総会は、コロナ感染症拡大で中止となりましたが、今年は支部創設90年に当り、校友会長神田雄一様、東洋大学長矢口悦子様からのご投稿で、校友会や大学の現状と、その進捗状況をお聞きすることができました。又当支部にも励ましのお言葉をかけていただきありがとうございました。

参考 2014.6著 福川伸次理事長「考えよう、そして行動せよ」

新潟県支部創設90周年記念によせて



一般社団法人東洋大学校友会

会長 神田 雄 一

東洋大学校友会新潟県支部創設90周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。校友会127年の歴史の中でも最も長い歴史を有する新潟県支部の活動における先人のご努力に対し敬意を表しますと共に、多くの校友の皆様方のご尽力に対し心より御礼を申し上げます。また昨今はコロナ禍にあって木村支部長をはじめとする執行部の皆様には大変なご苦勞をされておられる事と拝察いたしますが、校友会活動へのご理解とご協力に対しまして感謝を申し上げる次第です。

新潟県は、学祖井上円了博士、作家坂口安吾氏、元東洋大学理事長長島忠美氏をはじめとして数多くの著名人を輩出していることでも知られております。また支部会報「甬水」の継続的な発刊、総会の実施等支部活動を積極的に展開され多くの校友が活躍されておられることを大変ありがたく誇りに思います。

さて、現在、校友会は「新しい時代の魅力ある校友ソサエティの実現」をビジョンとして掲げ、校友会の活性化と改革に取り組んでおります。その中で、皆様のご理解とご協力により一般社団法人化を実現させていただきました。これにより組織としての「社会的信用」の確立や「透明性」を担保し、すべての卒業生を代表する校友会として自らを律しつつ会の目的を達成することに邁進する事ができます。さらに全世代、地域の網羅性に配慮するために地方10ブロックからの代表理事を選出し、全校友の代表組織として開かれた組織を目指しております。今後は次世代の校友会を担っていただく若い年代層の校友にも多数参加いただくよう努めてまいります。

母校東洋大学における昨今の進展は大変目覚しく、志願者数、大学評価においても全国トップクラスを占めており、コロナ禍における東京オリンピックにおいても現役の学生諸君をはじめOB/OG諸氏の活躍が期待されます。このことは校友にとりましても誇らしいことであり、本会としても母校の発展に引き続き寄与して参りたいと考えております。校友会に参加する魅力はボランティア精神を基本とし、会に参画し活動することにより得られる満足感や幸福感でありましょう。

新潟県の校友の皆様とは物理的な距離は離れているものの情報技術の進展により新しい形のコミュニケーションが可能となり、校友会でもオンラインで各支部との繋がりを持つことも可能となりました。是非ご活用いただき皆様との絆を深めてまいりたいと存じます。

「耕不倦」は円了先生が大正5年に揮毫された書ですが、私は「常に心を耕し、学び続けることが大事である」と理解しております。貴支部におかれましても今後100年、200年と益々のご発展をひとえにご祈念申し上げますと共に、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。





コロナ禍での東洋大学の取り組みと 校友会によるご支援への感謝

東洋大学 学長 矢口悦子

新型コロナウイルス感染症のパンデミックという事態にあって、校友会新潟県支部の皆様にはいくつものあたたかなご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

まずは、学生たちの修学継続支援のための本学独自の奨学金「RIBBON」への絶大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。さらには、不安定な日々の暮らしを強いられている中、頑張っている学生たちへの応援として取り組んでいる事業「Hands to Hands」では、たくさんの食糧のご支援をいただきました。受け取った学生たちは小さなメッセージカードでは表現しきれないほどの感謝を語っています。中にはそのご支援で生きることができたという深刻な告白や、何よりも「自分を思ってくださいる方がいる」ということに孤独な日々を照らす光を得たとでも表現できるような感謝が語られています。食事の厳しさは死活問題と言われますが、人のぬくもりから途切れたさみしさも同じです。かつて、全国各地で地域活動を展開していた青年団のキーワードは「一人ぼっちをなくそう」でした。いま、政府が「新しい」モデルとしている地域における孤立支援を推進するイギリスでは、孤独担当大臣を置いており、人々とのかかわりの中で生きることの大切さを語っておりますが、日本でも高度経済成長期という社会の激変期に、このことに気づいた様々な人々による活動が展開されてきていることを知る方は多いと思います。

孤立する学生をなくすための全学的な新しい取り組みが、もう一つあります。それは、学生を中心に据えた教育DX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術を活用した運営改革）の推進です。コロナ禍の影響を強く受け、世界中の大学がDXの只中にありますが、本学は2021年3月に文部科学省による補助金事業「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択されました（私立大学は22大学のみでの採択となりました）。これは、教育基盤を整え、より豊かな学びを保障するために、教員による授業の進め方の高度化だけでなく、学生たちを主人公として大学の諸制度を改革することを展望するものです。採択された本学の計画のキーワードは「3万人のLearning Journeyの羅針盤」と表現しました。学生たちのキャンパスにおけるあらゆる学びを学生本人が主体的に創造できるようにしたい、これこそが円了先生のお考えを引き継ぎ、私たちが教育理念として掲げている「独立自活」のために必要なことであると考えたものです。現在、教職員が一丸となって取り組みを始めております。

学生たちが自身の将来展望を確立していくために重要となるのが、キャリアモデルの存在です。校友会の皆様には、人生の先輩としてどのような信念をもって生きてこられたか、困難な事態に遭遇してもしなやかに自己を維持する方法、あるいはICTを駆使することで地域の課題を解決する喜び、孤立を防ぐために奮闘する場面など、学生たちにいろいろなことをご教示いただければと願っております。

猛烈なスピードでDXが進みますが、その根底にあるのは、人々が豊かに他者とかかわりながらより良い社会を作るという価値感の共有であり、人間として生きる哲学であると思います。今一度、円了先生の教えに学びながら、しっかりと自己確立できる学生の育成に努めてまいりますので、これからも変わらぬご支援のほど、よろしく願いいたします。

支部設立90周年にみんなで仰ぐ頌徳碑の歌を発見

東洋大学創立70周年を記念して昭和32年につくられた頌徳碑の除幕式で発表された「みんなで仰ぐ頌徳碑」の歌がみつかりました。校友の関 和之氏（S61.社会卒）が所有していたもので、同じく校友の阿部吉弘氏（S55.経営卒）が楽譜を基に音源を復活して下さいました。小学校時代に歌った思い出がある校友もいるようです。

音源をお聞きになりたい方は東洋大学校友会のホームページから新潟県支部のブログへアクセスして下さい。

みんなで仰ぐ頌徳碑
大江徳次作曲

おちついて $\text{♩} = 96$

1 や まは しろ がね のはーこ おーりり
2 そ らは あお あお はーみ ーわ
3 こころ は なーお てーく ーわ

かぜつ おかーに ゆきけーむーる
ながれも はえーる しな のーがーわ
まなびの そーを たが やーせーは

カンジキはいて はまゆこ う
みのりのあきよ はやくこ いた
しじのうらに そ び

われらはつちの子 こしじのこ
みちゆくひと しん びじ
い きよりしる い きん びじ

みんなで あおーく しょうとくひ
みんなであおーく しょうとくひ
いのうえせん しょうとくひ

※ 下をE旋律とする。

井上先生頌徳碑
（附三・九）

井上先生頌徳碑除幕式 執行委員 井上 圓了 作詩
大江徳次作曲

道ゆく人も 旅人も
みんなで仰ぐ頌徳碑

三 心に花を 手に鉄を
学びの園を 耕せば
越路の浦に そびえ立つ
雪より白い 金字塔

三 空は青々 地はみどり
流れる秋よ 早く来い

三 山は白銀 野は凍り
風立つ丘に 雪煙る
カンジキはいて はよこ
われらは土の子 越路の子
みんなで仰ぐ頌徳碑

題字 井上圓了先生頌徳碑 大倉邦彦書

碑文

井上円了先生は安政五年二月四日（西暦1858年）新潟県三島郡浦村慈光寺に生まれた。幼時から向学の志深く、初め石黒塾に漢学を習い、ついで長岡洋学校に洋学を学び、のち東京大学文科大学に哲学を修め、明治十八年七月卒業した。

諸学の根源は哲学にありとして哲学の普及に志し、二十年九月東京に哲学館を創設した。のちの哲学館大学、今の東洋大学がこれである。二十九年六月論文による最初の文学博士の学位を授与された。そのころ欧州の学術文化がさかんに輸入され、わが国固有の学術がしだいに衰微していくのを嘆き、よろしくわが国の学術文化は東洋思想の真髄をその基調とすべきことを唱道し、みずから欧州の各地に遊んで知見をひろめた。その生涯の志業は東西の学術を融合統一して、わが国独特の日本学をたて、智徳兼全の学者教育家、宗教家および社会指導家を養成して国家の興隆をはかるにあつた。ゆえに護国愛理を学是として多数の子弟を訓育し百余種の書を著して啓発の資としたほか、あまねく全国を巡歴して講学につとめ、その足跡は東亜諸国より欧米各国におよんだ。

晩年東京郊外和田山に孔子、釈迦、ソクラテス、カントなどをまつる四聖堂をはじめ、万卷の書を蔵する図書館、哲学的理想をあらわす堂宇や庭園をつくり、これを哲学堂と名づけ精神修養、社会教化の道場とした。このように哲学、宗教、教育、社会の各界にわたりひろく活動された人はまことに少なく、実にわが国文運の推進者であつた。大正八年（西暦1919年）中華民国巡遊の途上六月六日大連において講演中にわかに病を發して他界した。享齡六十二。東洋大学葬の礼により哲学堂のかたわらに葬られた。人格高潔、博学達識の先覚者として永遠に敬仰される。東洋大学は昭和三十二年をもつて創立七十周年に当るので、ここにこの碑を建て、永くその徳を記念するものである。



令和2年度 東洋大学校友会新潟県支部収支計算書

(自: 令和2年4月1日~至: 令和3年3月31日)

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. Includes sub-sections for 収入の部 and 支出の部.

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. Includes sub-sections for 収入の部 and 支出の部.

上記のとおりご報告いたします。
令和3年4月4日 支部長 木村 国太郎
会計担当 西脇 昇
上届決算報告について監査した結果、適正であると認めます。
令和3年4月4日 監査 原 薫
監査 津田 進

令和2年度 会務報告
(2020年4月1日~2021年3月31日)

- 2020年
3月22日(日) 新年度計画準備役員会 佐田 郎
4月26日(日) 令和2年度第1回役員会 長永 寺(11:30~12:30 7名)
5月16日(土) 令和2年度支部長会 東京→中止
6月7日(日) 第2回役員会(支部総会などを協議)坂井 郎→中止
6月21日(日) 上越地区総会→中止
6月28日(日) 中越地区役員総会等案内状郵送)10:00~14:00→中止
7月 城西支部総会→中止
7月 浦水会新潟県支部総会→中止
8月 大学野球サマリーリーグ観戦・激励→中止
8月22日(土) 第89回校友会新潟県支部総会(下越地区)新潟市→中止
8月25日(火) 会報浦水36号本部へ発送
9月 陸上競技部「山古志合宿」→中止
10月3日(土) 米百俵まつり→中止
10月18日(日) 臨時中越地区役員会 佐田 郎(10:00~11:30)(5名)
10月18日(日) 大学対抗ゴルフ大会(上越在住4名参加)
10月25日(日) レディースクラブ「女性の集い」→中止
10月31日(土) 白山会(下越地区交流会)(12:30~14:30)(15名)
11月8日(日) ホームカミングデー→中止
12月6日(日) 第3回役員会(年間活動の総括など、忘年会)
長岡グランドH 11:30~14:00(9名)
2021年
1月23日(土) 駅伝祝勝会(長岡 彦乃)→中止
2月17日(水) 安吾忌 齊藤顧問墓参
3月27日(土) Zoomによる下越地区役員会議
4月4日(日) 支部会計監査(10時)及び新年度計画準備役員会

令和3年度 東洋大学校友会新潟県支部収支予算書

(自: 令和3年4月1日~至: 令和4年3月31日)

Table with columns: 科目, 令和3年度予算案(イ), 令和2年度予算額(ロ), 令和2年度決算額, 増減(イ-ロ), 摘要. Includes sub-sections for 収入の部 and 支出の部.

Table with columns: 科目, 令和3年度予算案(イ), 令和2年度予算額(ロ), 令和2年度決算額, 増減(イ-ロ), 摘要. Includes sub-sections for 収入の部 and 支出の部.

令和3年度 事業計画
(2021年4月1日~2022年3月31日)

- 2021年
4月4日(日) 新年度計画準備役員会 佐田 郎
4月25日(日) 令和3年度 第1回役員会 坂井 郎(11:30~)
5月15日(土) 令和3年度支部長会 東京
6月6日(日) 第2回役員会(支部総会などを協議)坂井 郎
6月20日(日) 上越地区総会
6月27日(日) 中越地区役員会 坂井 郎 (総会等案内状郵送)
7月 城西支部総会
7月 浦水会新潟県支部総会
7月23日(金) 東京オリンピック
8月24日(火) 東京パラリンピック
8月 大学野球サマリーリーグ観戦・激励
8月29日(日) 第90回校友会新潟県支部総会(上越地区)上越市
9月 陸上競技部「山古志合宿」
10月2日(土) 米百俵まつり
10月17日(日) 大学対抗ゴルフ大会
10月24日(日) レディースクラブ「女性の集い」
11月7日(日) ホームカミングデー
11月 白山会(下越地区交流会)
12月5日(日) 第3回役員会(年間活動の総括など、忘年会)
2022年
1月22日(土) 駅伝祝勝会(長岡市 彦乃)
2月17日(木) 安吾忌
4月3日(日) 支部会計監査

上越だより

令和2年度(第16回)大学対抗親善ゴルフ大会結果報告

S53年工学部応用化学科卒 吉田 実

令和2年10月18日(日)に妙高サンシャインゴルフ倶楽部で第16回大学対抗親善ゴルフ大会が開催されました。当日は好天に恵まれ東洋大学チームは妙高山の裾野のコースで楽しくプレイすることができました。

今年は新型コロナウイルス感染防止のため長岡からの選手が欠席され、上越からの選手4名の1チーム出場となりました。団体戦は残念ながら11位と振るいませんでしたが、個人成績では高島幸男さんが見事4位と上位入賞されました。

今回出場の選手の皆さん大変お疲れ様でした。



左から吉田、澤海さん、杉澤さん、高島さん

一斉雪下ろしで・道路にたまる雪

1月11日現在高田の積雪量249cmを記録上越高田地区では一斉雪下ろしが1月23日(土)から24日(日)両日午前8時30分から行われ、排雪作業は25日(月)からおおむね5日間の予定で実施されました。排雪作業が終了するまで、交通規制が行われ、一般車両の進行が禁止され、また作業区間の集積所のゴミ収集が休止となり、市民生活に大きな影響を受けました。前年度は暖冬で、安心していたのですが、令和3年度の年明けから連日の雪・雪・雪パニック状態で連日雪との戦いでした。これも温暖化の影響でしょうか。

写真・文 小島 正弘 (S39.経済学部経済学科卒)



中越だより

「居合道で学んだこと」

S48年社会学部応用社会学科卒 今井博夫

令和元年8月25日、長岡グランドホテルで開催されました第88回新潟県支部総会の懇親会において私が修練しております居合道の演武の機会をつくって頂きましたこと誠に有りがたく先ずもって感謝、御礼申し上げます。

武道の中でもマイナーであります「居合道」について少しお話させていただきます。

居合道は全日本剣道連盟の傘下にあり、私はその中の新潟県剣道連盟居合道部会に所属しています。

居合道の理念は「居合道は剣の理法の修練による人間形成の道である」とされています。そして修練の心構えは「居合道を正しく真剣に学び、心身を練磨して旺盛なる気力を養い、居合道の特性を通じて礼節を尊び、信義を重んじ、誠を尽くして、常に自己の修養に努め、以って国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである。」と記されています。(全日本剣道連盟資料より)

では、居合とはどんなものなのでしょうか。居合の「居」とは、体の居る所、とすることで、立っても居、歩いても居、走っても居である。また無念夢想も、恐怖も、喜怒哀楽も心の居である。即ち「居」とはその場その時の心身の实在をさしている。「合」とは、打てば響き、呼べば応えと言う臨機応変、当意即妙の働きをいう。居合即ち居合わすの意で、行住坐臥、一挙手一投足もゆるがせにしない心の修練が居合の本領である。と説いています。(山形県居合道さくらんぼ大会資料より) 私は、以上のことを念頭に日々修練を重ねているところですがなかなか思うようにならないのが現実です。

居合道道歌に「居合とは人に切られず人切らず 己を責めて平らかな道」と言うのがあります。また、「戦わずして勝つ」と言う言葉があります。平素はこのような道歌、言葉を信条に稽古に励んでいます。そして、日ごろの修練から学んだことは、平たく言えば「何事も用心と備え」が肝要と言うことです。「戦わずして勝つ」で言えば、武徳を以って相手の戦意を鎮め、論し、相手を活かすと言うことです。

前述の居合道の理念である「剣の理法の修練による人間形成」では「如」を学びました。即ち、物事に対しては先ずは“認める”そして“受け入れる”と言う姿勢です。これがなかなかできないのですが日ごろ心がけています。

習い事は死ぬまで修行と言われます。居合道も同様に「技は近し、道は遠し」です。

千の稽古を鍛、万の稽古を錬と心得、日々精進しているところです。



豪雪に見舞われた中越地区

この冬今までにない程の豪雪中越地区もおそわれ、除雪作業で大混乱となった。 写真撮影 木村国夫 (S45経済学部卒)



下越だより

下越地区懇親会が開催されました

令和2年10月31日、新潟県支部下越地区の懇親会、新潟白山会を開催致しました。参加者は15（女性2名）名でした。

コロナ禍での開催でしたので、当日参加者には検温をお願いし、いつもより大きな部屋で換気をし、万歳三唱や、校歌斉唱は、省かせていただきました。

会は阿部地区事務局長の司会で進められ、まず物故者への黙祷で開始、本間副支部長の挨拶、乾杯で、宴会に移りました。

今年は新潟県支部総会も中止となり、唯一の会の為か、いつもより会話も弾み、各自の近況報告では、質問や、ツッコミ等も有り、和やかに進められました。最近恒例となった東洋大学グッズ争奪くじ引きでは、1番の高額の扇子には、歓声があがり、ボールペン1本にはため息が漏れたり悲喜こもごもでした。あつという間の2時間でした。

最後は、長谷川喜昭（S47.経営卒）氏の1本締めで、来年の再会を約束し散会となりました。（本間記）



第33回 安吾忌について

1955年2月17日坂口安吾がなくなって66年目。昨年来のコロナ禍が終息の見通しがたちません。

そこで今回は時間を指定せず、各自が都合のよい

時間に墓参に行くということでおこなわれました。

下越地区からは、顧問の斉藤 淳氏（S53.法学部卒）が墓参にまいりました。

懇親会は取り止めとなりました。

リモートで下越地区会議を開催

下越地区ではIT推進委員の阿部吉弘氏の主導で、下越地区の会議を本年3月27日校友会本部が推進するZOOMで会議をおこないました。又、不定期でZOOM雑談会も開催しております。

このIT化について阿部氏は下記のように寄稿してくださいました。来年度は役員の交代年であります。ぜひIT化を推進できる体制をとってほしいものです。尚ZOOM雑談会に興味のある方は（他地区でもOKです）下記メールアドレスに連絡を下さい。

usnavy320826_cb@yahoo.co.jp 阿部吉弘

校友会におけるIT推進化について



阿部 吉弘

このコロナ禍で私達の生活面、殊に飲食を伴う会合、が著しく制限されるようになってしまいました。

当支部においても、二年連続の支部総会、懇親会が中止となり、校友同士の交流が全く無くなってしまったと言っても過言ではありません。

校友会本部でもこのような状態を危惧して、インターネットを使ったズーム会議を提案してきたものと推察されます。勿論、ヒトとヒトとの交流は対面が一番大切であることは言うまでもありません。しかし、ズーム会議にも相応のメリットがあることもまた事実であります。

ズーム会議では自宅のパソコンを使って、遠隔地同士が会話をして意思疎通を図ることができます。また一カ所に集まる必要が無いために交通費の負担が皆無になることも、金銭的に窮乏している校友会にとっても有難いのではないのでしょうか。

始めたばかりのズーム会議でありますので、今後は不測の事態もあるかと思えます。パソコンやインターネットは苦手な方も少なからずいらっしゃることも承知しています。だからと言って手をこまねいては校友会活動はジリ貧になってしまいます。

インターネットが出来る環境を構築し、インターネットを使えるようになることは、現在の自分と未来の自分に対する投資そのものとお考え下されば有難いと存じます。

陸上部山古志合宿激励中止のご報告

2020年度に続きコロナウイルス感染症が拡散していることから陸上競技部（山古志合宿）、野球部への激励活動は中止といたしました。

これまで集まりました激励金は陸上競技部へは54,603円、野球部へは40,000円を大学募金課へ6月14日送金しました。ご報告いたします。

支部長 木村 国夫

寄付金受領書

2021年6月14日
第20210068号

新潟県長岡市渡里町3-1-1

東洋大学校友会 新潟県支部 様

金 94,603 円也

上記金額を「東洋大学 教育・研究協力資金」として正に受領いたしました。

東京都文京区白山5-28-20

学校法人 東洋大学

(注1) 金額訂正した受領書、受領印のない受領書は無効です。
(注2) 当該受領書および特定公益増進法人であることの証明書写し(裏面)により、税制上の優遇措置を受けることができます。
(注3) 特定公益増進法人の主たる目的である業務に関連する所得税法第78条第2項第3号又は法人税法第37条第4項に規定する業務に係るもの

校 歌

作詞 林 古溪
作曲 山田 耕筈

亜細亜の魂再び此処に
目覚めしよろこび溢れつ人に
雄々しく掲げたり闘^{とき}の声
東洋大学生れぬかくて

亜細亜の天地暁明けて
仁義と慈悲との誠の光
今こそ輝け西の海
東洋大学務は重し

事務局より

◎校友会費納入についてのお願い

支部活動は校友会費納入による、支部還元金によって運営されております。納入いただいた方には、校友会本部から「東洋大学校友会報」が年2回送付されます。この会報「雨水」も還元金によって多くの方々の手をわずらわし、発行させていただいております。

年会費 3,000円 終身会費(1回完了) 50,000円

郵便振替 口座番号 00150-0-91833

加入者名 東洋大学校友会

◎校友会本部事務局よりメールアドレス登録のお願い

「校友会ジャーナル」は、一般社団法人化を機に令和2年10月より電子版を前提にした作りリニューアルいたしました。今後は、段階的にメールの配信に切り替えていく予定です。メールアドレスの作成・登録についてご協力の程よろしくお願いたします。

【メールアドレス登録の連絡先】

東洋大学校友会事務局

FAX.03-3946-6311 E-mail:koyukai@alumni-toyo.jp

件名: 校友会ジャーナル用メールアドレスの件

会員動静

(敬称略)

■受章おめでとうございます

令和2年度秋叙勲 旭日双光章 渡辺 仁 S47.経済学部経済学科卒

令和3年度 東洋大学校友会新潟県支部役員名簿

役 職	氏 名	卒年学科	所在地
顧問	安藤 良 顕	S43 工学	長岡市
顧問	植木 宏	S31 文学	上越市
顧問	斎藤 淳	S53 法律	五泉市
支部長(代議員)	木村 国夫	S45 経済	長岡市
副支部長(代議員)	佐田 雅彦	S49 商	長岡市
副支部長(代議員)	小島 正弘	S39 経済	上越市
副支部長(代議員)	本間 直彦	S50 英米文	新潟市
事務局 長	原 薫	S54 土木工	長岡市
会 計 部 長	西脇 晃	S49 経営	長岡市
監 事	原 薫	S54 土木工	長岡市
監 事	津田 進	S41 応社	長岡市
会 報 部 長	石塚 徹	S42 建築	長岡市
下越地区事務局長	阿部 吉弘	S55 経営	五泉市
中越地区事務局長	原 薫	S54 土木工	長岡市
上越地区事務局長	石田 秀男	S41 経済	上越市
レディスクラブ	大河内 邦子	S54 院文学	新潟市
レディスクラブ事務局長(代議員)	高崎 弘子	S52 経法	長岡市

編集後記

昨年は、新型コロナウイルス感染症により校友会新潟県支部の総会をはじめ様々な行事が中止となり、校友会新潟県支部創設90年の節目の年にあたる今年の会報「雨水」の編集にも大きな影響を及ぼしました。

そんな中で、神田校友会長、矢口学長より支部創設90年の祝辞をいただき、又校友の関氏より「みんなて仰ぐ頌徳碑」の貴重な資料の提供を受けまして、何とか「雨水」37号の発刊にこぎつけました。

校友会新潟県支部は、これからも連綿と続いていくと思いますが、会報「雨水」も、校友の皆様や様々な方々からの協力、情報提供を得て新潟県支部の歴史の記録の一助となるよう発行を続けていきたいとおもいます。

コロナに負けずに頑張ろう。そして来年の総会には、元気な顔で会いましょう。

(S.50.文・英米文卒 本間直彦)